



善正寺だより

掲示板法話

死亡率百パーセントの我ら

「柔らかな心」で乗り越えよう



新型コロナウイルスの感染が中国で報じられてから、半年。世界中に感染が広がり、一時は各国が鎖国状態に陥り世界恐慌のような状態に陥りました。ぼつぼつ非常事態(都市封鎖等)の解除をする国が出てきましたが、元のように自由な往来、交流ができるようになり、普通の日常に戻るのはまだまだ先の話。ウイルスとの戦いは長期戦を覚悟しなければなりません。

そんなある日、遠方の法友の方からお便りを頂きました。「お参りしたいお寺の法座などが軒並み中止になり、倦怠感に襲われています。コロナのことを仏さまはどのようにお考えなのでしょう。か、と問いながら大経(下巻)を読んでいます」と記されてありました。「仏教徒はこうでなくっちゃ!」と元気を頂きました。

多くの人は「コロナが憎い」「一体いつまで自粛しなきゃならないのか?」とストレスを溜めて、恐怖と不安の虜になっています。中には差別や偏見のトラブルも起きていますが、それは自分の殻に閉じこもって心を萎

縮させているのです。それに対して、仏法は「柔らかな心」を説きます。この方は心して聴聞に努める習慣から「困った時は仏さまに相談しよう」と立ち止まり、仏さまの智慧の鏡にわが身を照らして見直そうとしておられます。コロナに感染してもしなくても我々は皆平等に、「死亡率百パーセント」、それが諸行無常ということ。そもそも近年の感染症(エイズ、エボラ出血熱、SARS(重症急性呼吸器症候群)、MERS(中東呼吸器症候群)、ジカ熱など)は、地球の温暖化、森林伐採によって野生動物と人間の生息域が近接してきたことが原因です。豊かさを追求し、便利さや快適さを求めて走ってきた近代文明が新たなウイルスを生み、高度医療で立ち向かうというイタチごっこが繰り返されているのだと思えば、これは地球人類みんなで負うべき宿業ではないかとさえ思われます。

この記事を書いている五月半ば、特定警戒地域(十三都道府県)以外の県では外出自粛や休業要請が緩和され

〒:512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善正寺
☎:059-331-1670
fax:059-332-0733

☆お詫びとお知らせ☆

◇6月の門信徒会例会



6月21日(日)午前8時半より※第3日曜日の朝

高齢者が増えて夜の外出が危険と判断し6月より

朝8時半の開催に変更。よろしくご理解下さい

コロナ外出自粛中ですので、情勢を見て判断し変更があり次第至急連絡。新行事様8名の名前は裏面ホットニュースに記載。担当行事様のご出席をお願いします。※6月号は諸般の事情により早めに配布します。※総会は中止しましたが、総会資料は6月号寺報と共に旧行事様に配布して頂きます。

※総会の資料作成にあたりましては担当の旧役員様や旧行事様と相談の上決めました。変則的日程ですがご承知下さい

三重組仏教講習会6月14・15・16日の開催は未定。

◇絵手紙教室と歌声喫茶再開時には改めて各人に連絡します。

◇5時の鐘撞きは毎日有り。キッズサンガは6月より。

◇善正寺ホームページ「三重善正寺」で検索、1年分の寺報閲覧可、毎日更新のブログ『住職と坊守のつれづれ日記』大好評。開設11年10カ月で31万8千訪問。悩み相談歓迎

◇新納骨堂後継者のない方お墓でお困りの方ご相談下さい

◇法事場所法事場所でお困りの方、本堂使用可ご相談下さい

る地域が出てきましたが、気が緩めばまた第二波、第三波が強度を増して襲わないとも限りません。完全終息までのかかり長い(二年、あるいは三年?)の持久戦を耐え抜く心身の免疫力を持つよう努め、「コロナ後」への助走をしましょう。コロナ後の世界は大きく変わるに違いないでしょう。

身体の免疫力向上には、栄養、睡眠、適度な運動が大切ですが、充分な睡眠をとるには愚痴や怒りは逆効果です。貪欲を慎み、怒ったり愚痴ったりせずにできるかどうかは、仏さまと共に歩む「柔らかな心」次第です。柔らかな心と法縁を大切に、この非常事態を乗り越えましょう。

☆ 写真アラカルト ☆



坊守スケッチ

白内障手術その後



ぼうし
ぼうし

コロナで全国的に外出自粛要請が出されている最中、去る4月21日に白内障の左目手術をしました。また5月19日に右目も手術します。単焦点か多焦点かと迷いましたが、結局単焦点レンズに決定。今まで裸眼で新聞も読めましたが、今後は老眼鏡が必要です。手術自体は15分程で終了し日帰りでしたが、その後の生活規制や毎日4回の点眼や、度々の通院の手間を考えると、決して楽な手術ではありません。

一人暮らしの知人が縫合手術の失敗で、大病院でやり直し手術したという話を聞くと、決して安全で簡単な手術とは言えません。70代では80%以上の高齢者が患う白内障。今後手術をする人が益々増加するでしょう。パソコンやスマホの強い光で目に負担をかける現代では、その年齢はもつと早まっています。白内障は顔で言えば皺のようなもの。誰しもが患う目の老化現象です。遅かれ早かれ避けられない病気ならば、覚悟して手術を受けて、人生100年時代を生き抜きましょう。

ところで手術当日午後、3時間程前に眼科へ到着、個室で手術着に着替え頭にはキャップを被りベッドに待機。その間色々な検査があります。その日手術を受ける人は9人。私は3番目。隣の部屋のノックする音が聞こえるといよいよ次の番と、まるで死刑執行

を待つ死刑囚のような心境。車いすに乗せられて手術室隣の小部屋に待機。看護師さんから説明を聞いた後、いよいよ手術室へ。点眼薬の麻酔なので意識はつきりしています。左目にオーロラのようなグリーンの美しい光が見えたかと思うと、次々に色が変化。まるで宇宙空間を遊泳している気分。

「眼を動かさないで」という先生の指示が飛び、ようやく一点に焦点が定まりました。帰宅後大きな眼帯をしてマスクをかけた私の異様な姿に、孫達が怖がるかと思いきや、「バアチャン、大事にしてね」との優しい言葉。手術後2週間は生活にいろいろ制限がありますが、朝の散歩だけは足腰の衰えを防ぐために短縮版で継続しています。右目も同様に不自由な日が続きます。コロナ期間は私の白内障手術期間で老いを自覚した時期となりました。

俳壇

点滴や窓の向こうは春の雨 釋妙水
看護師の針刺す指の余寒かな
大股で蒲公英踏まず上り坂
主なき二枚葉鈴蘭庭の隅
藤房や毛虫の如く柵に這う
古庭の縁の重き五月雨 釋榮邦
山躑躅仏花に添えて亡父の顔
雨の朝嬉々と蛙の二重奏 釋清風
休校の児ら遊歩する日永かな
若葉茸く徑を辿りて歳数ふ

☆若院夫婦の「育自な日記」66

期待と不安の新学期はわずか一週間で再び休校、更に延長され五月末までとなりました。四日市市では、休校中の学習を保障するため独自の学習教材の配信が始まりました。パソコンやタブレット端末よりインターネットにアクセスし、学習プリントや解説動画を利用することができます。

この学習プリントは画面に直接書き込めないのが我が家では印刷してから解答しています。長男は三年生に進級したので今年から理科、社会、英語が加わり、五教科全てをこのインターネット教材に頼ることになります。実際に利用して感じたことは、復習には利点が多いでしょうが、見たことも聞いたこともない事を紙一枚で理解させることはなかなか大変だということです。学校であれば、先生から問題提起され友達とわいわい考えながら答えに辿り着くのですが、それが全く無いので身につくかが不安です。達成感も得にくいです。しかし学習を継続させる為には必要で、上手にこれを利用していきましょうと思います。

以前お説教で「仏様のみ教えは二縁の中で人が生かされることだ」と聞き、学校の長期休暇も家庭で子供と長く過ごす二縁。これを大事して模索しながら進んでいくつもりです。



ホットニュース

◇先の選挙で選ばれた新世話方紹介) 服部則男、館勇次、服部徹次、服部和司、佐藤和義、伊崎司郎、服部浩二、館賢二の各氏にご承諾頂き感謝します。8名の方よろしくお願ひします。

◇新年度行事紹介、1館昭宏 2館勤 3佐藤和美 4館美代子 5佐藤きぬゑ 6館十喜生 7伊崎武男 8森儀記、行事長・館勤、会計・館純子の各氏に依頼、6月より担当です。

※6月の門信徒会例会より毎月第3日曜日の朝8時半からの開催に変更します。高齢者が増え夜の外出が危険との判断。勝手ながらご了承下さいませ。

令和2年度善正寺主な行事案内

☆五福盆会法要 8月14日午前8時半

☆秋季永代経 8月15(土)・16(日) 両日共午後1時半 加藤正人先生

☆報恩講 11月2日午後と夜・3日午前午後仏婦報恩講・守快信先生(滋賀)

☆秋勧進 11月23日午前8時

☆お内仏報恩講 12月5日土前10時半

カンパありがとう

澤田美智恵様、福島真介様、小林様 他匿名様より頂戴しました。

☆ 編集子より ☆

「善正寺だより」318号をお届けします。◇コロナ危機の中、仏降誕会・初参式、3密を避け短縮型でお勤め。法事も少人数でお勤め、「やっつてよかった」との話聞く。◇自粛疲れ、柔軟心で活力を取り戻したい。合掌。

コロナ危機で世界の様子は一変しました。今まで築き上げてきたものが一挙に失う事態になりました。順風満帆の頃にとこのようなまさかの事態を予測できたでしょうか？おそらく大半の人が今まで築いた幸せが「当たり前」であって、「おかげさま」とか「有難い」という気持ちを忘れがちになっていたのではないでしょうか？「失って初めて知る親の恩」と言いますが、豊かな時代に育った私達は、競争に勝ち抜き我が力で全て獲得したかのような勘違いしからずです。生きる為は何を一番大切にしなければならぬかさえも見失ったままウカウカと過ごしてきました。コロナ危機の原因は今後の行方は専門家に任せるとして、私の感想を一言申し上げます。コロナ期間は私の白内障手術期間でもありました。手術後、白い眼帯を外して見た景色はよく磨いたガラス戸越しにスクリ見える世界でした。しかし鏡に映ったわが姿を見た瞬間「ガッカリ」「まあ何てお婆さん、白髪が増えた」と愕然としました。今までは白内障で霞んでよく見えなかっただけのこと。老いの現実を知っただけでむむ手術をした意味があります。今回のコロナ禍は世界大恐慌以上に人々を苦しめる深刻な状況を私達に突き付けています。この緊急時に私達の生き方そのものを見直すきっかけに致しましょう。お寺の活動も並分自粛しますが、毎月の寺報と毎日のブログは私達のラブレターとして継続中です。寺の情報発信をどうもお受け取り下さい。安心して寺参りができる日が来るように願っています。

令和二年六月

合掌

善正寺坊守拜